

## 「保育音楽」の授業における絵かき歌

島崎 篤子\*

(2001年1月7日受理)

Atsuko SHIMAZAKI

EKAKIUTA (drawing songs) in my Preschool Music Education Class

### はじめに

最近では、テレビ・ゲームやコンピュータ・ゲームの普及によって、子供の遊びの質が変わってきているとはいえ、元来、子供は遊びの天才である。幼稚園や小学校の行き帰りやバスを待つ短い時間でさえ、手遊びやじゃんけん遊びやなぞなぞで楽しむ子供の姿は、減ってきてはいても消滅していない。歌の世界においても、子供たちがどれほどビートの利いたリズムカルな音楽を楽しんでいても、われわれ日本人が日本語を話す限り、日本語から自然発生的に生まれる2音・3音のわらべうたの世界が完全に消滅することは、今後もあり得ないであろう。

本稿は、筆者が担当している「保育音楽」の授業において、わらべうたの一種として取り上げた絵かき歌の活動について、昔の子供である学生が取り組んだ創作絵かき歌に焦点を当てながら、口頭伝承である絵かき歌の特性やこれからの展望について考察するものである。

### I 幼児教育におけるわらべうた

#### 1. 遊びの機能とわらべうたの種類

遊びというと、大人の場合は気分転換やストレス解消や暇つぶしなどといった消極的なイメージがつきまとうが、子供の場合の遊びは、本来、子供の心身を発達させ人格形成においても貢献し得る要素をもつという積極的な意味が強調されてきた<sup>1)</sup>。そしてこの積極的な意味をもつ遊びを、その機能面からいくつか括ることが可能である。ここでは深谷昌志・和子の両氏の遊びの機能論を基に、筆者なりに括った次の5つの機能と、それぞれに該当すると思われる遊びの例をいくつか挙げておきたい<sup>2)</sup>。

①体力や身体づくり (例: ぶらんこ, 雲梯, 滑り台, 自転車, かけっこ, 縄跳び, 鬼ごつ

\* 岩手大学教育学部

- こ、野球やドッジボールやサッカーなどの個人や集団によるスポーツ等)
- ②社会性や協調性の育成 (例：役割分担を伴うごっこ遊び、馬飛び、ゴム飛び、集団縄跳び、缶蹴り、仲間とのスポーツ、仲間との音楽遊びやお絵かき等)
- ③欲求不満や緊張緩和など情緒の安定 (例：砂遊び、泥んこ遊び、水遊び、植物や昆虫採集、動物の世話、音楽遊び、お絵かき等)
- ④主体性や自主性の育成 (例：ブロック、積み木、人形、ミニチュア物づくり、音楽遊び、お絵かき等)
- ⑤知的・創造的な能力の開発 (例：各種ゲーム、読書、積み木、トランプ、囲碁・将棋、テレビ、ラジオ、パソコン、パズル、なぞなぞ、音楽遊び、お絵かき等)

これらの機能をもつ子供の遊びの中でも、音楽遊びの一つとして考えられるわらべうたは、お絵かきと並んで、主に②の社会性や協調性の育成、③の情緒の安定、④の主体性や自主性の育成、そして最も⑤の知的・創造的な能力の開発、といった多様な遊びの機能に関連すると考えられる。したがって本稿で取り上げるわらべうたの一種である絵かき歌は、多様な遊びの機能に関連している。音楽遊びとお絵かきが一体となった絵かき歌は、音楽と美術が統合された芸術的な要素をもつ子供の遊び文化と言っても過言ではない。

ところで日本のわらべうたの分類は、さまざまな考え方に基づいて、多様に分類されているが、日本だけではなく外国のわらべうたをも視野に入れた分類法として、民族音楽学者の小泉文夫氏の分類法によると、わたべうたは次の10種類に区分できる<sup>3)</sup>。

- |          |          |             |             |
|----------|----------|-------------|-------------|
| 0. となえうた | 1. 絵かきうた | 2. おはじき・石けり | 3. お手玉・羽子つき |
| 4. まりつき  | 5. なわとび  | 6. じゃんけん    | 7. お手合わせ    |
| 8. からだ遊び | 9. 鬼遊び   |             |             |

0の「となえうた」は、1から9が遊びを伴う歌であるのに対して、唱えることそれ自体が遊びであり目的であることから、0番が付されているようである。この「となえうた」には、唱え言葉、尻取り歌、早口歌、数え歌、悪口歌、替え歌など、多様なことば遊び歌が含まれている。小泉氏がこの分類法に基づいて、日本の子供のわらべうたの大きかりなフィールドワークの研究成果を発表したのは、1969(昭和44)年のことであった<sup>4)</sup>。

現在では、遊びの変化に伴って、2の「おはじき・石けり」、3の「お手玉・羽根つき」、4の「まりつき」などのわらべうたは、普段の生活の中で見かけなくなってきているが、5の縄跳び歌を初めとして9までのわらべうたは、子供の遊びの中で今なお健在である。そして本稿で取り上げる「絵かき歌」は、現在にいたるまで細々とではあるが、子供の中で継承されてきている。しかしながら次第に減少してきているのは否めない事実である。

## 2. 絵かき歌の意義

絵かき歌は、絵かき遊びや絵かき遊び歌などとも呼ばれることがあるが<sup>5)</sup>、本稿では、現在、最も一般化している絵かき歌という用語を用いることにする。いずれにしても絵を描きながら自ずから口をついて出てきてしまう歌が絵かき歌なのである。

江戸時代には、子供よりも大人たちの絵遊びとして文字絵が盛んに行われていたが、子供の文化として絵かき歌が発展したのは大正から昭和にかけてであり<sup>6)</sup>、他のわらべうた

よりもその歴史は浅い。また1960年代・70年代には、「おぼQ」(1965年)や「ドラえもん」(1973年)など、テレビを通じて作曲家による創作絵かき歌が普及した時期もあった<sup>7)</sup>。

筆者の子供の頃は、その辺りに転がっている石を使って、友達と一緒に絵かき歌を歌いながら地面に絵を描き、どちらが上手に描けたかを競ったものである。何度も消しては描き、描いては消して遊んだが、決して飽きることはなかった。飽きない楽しさというのは、この種の遊びの特徴や魅力を示唆しているといえよう。

このような絵かき歌の意義を考えてみたい。

第一に、音楽と絵が直結した日本特有の総合的な遊びである。

地面などに絵をかく遊びは世界の子供の遊びにも見られるようだが<sup>8)</sup>、日本の絵かき歌に当たるような絵と歌が一体化した遊びは、韓国に多少見られるだけで、希有といってもよい状況である。現在の日本では、地面にかくよりも紙や黒板にかいて遊ぶ方が多い。いづれにしても日本の絵かき歌は、日本独自の子供文化として大切にしたいものである。

第二に、遊びながら自ずから創造的な感性が養われる遊びである。

基本的に歌を歌ったり絵をかいたりする遊びは、創造的なものである。しかも絵かき歌の場合は、その時々調子で、同じ絵でもうまく描けたり描けなかったりもする。常に完成を予想しながら、一つ一つの線を歌いながらかいていくことになる。また子供は、いつの間にか既成の絵かき歌に飽き足らなくなり、自分で創作絵かき歌を創ってしまうこともある。自ずから創造的な感性が養われる遊びの所以である。

第三に、落書きの快感が味わえて、楽しく描ける遊びである。

江戸初期にオランダから輸入したといわれている鉛筆が、一般的に学校で使われるようになったのは明治末期である。したがって絵をかく子供の遊びという点、もっぱら地面に棒きれや白墨や蠟石でいたずらがきや絵かき歌をして遊んだようである。馬場富子氏によると、明治末期、地面や石段や他人の家の塀等に子供がかいたらくがきは、「へのへのもへじ」や「みみずが3匹～」などの絵かき歌が多かったということである<sup>9)</sup>。落書きが歌を伴って、いくらか洗練された遊びが絵かき歌であるといってもよさそうである。

第四に、わずかな場所や道具だけで、たった一人でも遊ぶことができる。

現在では、家の前の地面に絵かき歌をかいて楽しむ子供の姿はほとんど見られなくなってきたが、絵かき歌は、紙の上で歌われ描かれながら子供の遊びの一つとして生き続けている。小泉文夫氏が、大人の「孤独なパチンコ」を引き合いに出しながら、「絵かき歌は多数の子供と一緒に見せあって遊んでいても、結局は孤独な遊びです。本来は一人で、小さな声でプツプツいいながら落書きするものです<sup>10)</sup>」と述べているのは興味深い。

近年、一人遊びはもっぱらコンピュータ・ゲームに取って代わっているが、高価なハードウェアがなくても、紙とエンピツさえあれば一人で楽しめる絵かき歌の手軽さは、今なお子供にとって魅力である。しかし絵かき歌の面白さは、「あつという間に～」と歌いながら突然現れる見事な完成面に仲間の賞賛を得られた時に、より満足感や充実感を覚えるものである。その意味では、孤独な一人遊びというのは十分に言い叶えていない。

### 3. 絵かき歌の特徴～その暗黙の約束ごと

前述したように、遊びには社会性や協調性の育成という機能があり、この機能の故に、西村清和氏が「遊びのエートス」と呼んだ「合意にもとづくルールの遵守、共同作業にお

けるパートナーシップ、そして、これらの行動に示される持前、徳としての、公正な態度や精神<sup>11)</sup>」というようなことが大切になる。絵かき歌はいわゆる競い合いのゲームとは違い複雑なルールこそないが、絵かき歌には絵かき歌なりの暗黙の約束ごとが存在している。絵と歌に分けて、約束ごとと考えられる事項を挙げておこう。

#### <絵に関する約束ごと>

- ① 始まりの言葉に、「～がありました」「～ちゃん(さん)が」等が多い。
- ② 完成画から離れたイメージのものからスタートし、意外性を重視する。
- ③ 描くプロセスそれ自体が意味を感じさせる形を表し、描くプロセスが楽しめる。
- ④ 最終段階では、「あつという間に」の言葉で完成画に到達することが多い。

#### <歌に関する約束ごと>

- ① 絵をかきながら、必ず歌う(歌いながらかく)。
- ② リズムによって歌うが、絵をかく速さに合わせてメロディーのテンポが伸縮する。
- ③ メロディーは日本語の抑揚に合わせて自然と生まれる単純なわらべうたが多い。
- ④ 新しい絵かき歌では、西洋音階による既成曲を活用してもよい。

以上、遊びの機能とわらべうたの種類、絵かき歌の意義、絵かき歌の特性等について述べた。これらは、筆者が「保育音楽」の授業で絵かき歌を取り上げた理由でもある。

## II 絵かき歌「コックさん」のいろいろ

「保育音楽」の授業では、理論だけではなく実践力を磨くために、様々な音楽遊びを実際に学生たちが体験する授業を展開している。絵かき歌の活動についても、授業の焦点として、自分で創作絵かき歌を創る体験を重視したのである。そのための前提として8つの既成の絵かき歌をプリントで例示した。岩井正浩氏は、絵かき歌を、A数字を主に展開するもの、B文字を主に展開するもの、C図形を主に展開するもの、D複合して展開するもの、の4つに分類しているが<sup>12)</sup>、筆者が学生に例示したのは次のようなものである。

- ・ A数字： 「2ちゃんが～あひる」「6ちゃんが～うさぎ」「9ちゃんが～めがね」
- ・ B文字： 「つるさんは～おじいさん」「へのへのもへじ～人の顔」
- ・ C図形： 「へびさんへびさん～かさ」「よこよこたてたて～おかみさん」
- ・ D複合： 「おなべかな～コックさん」

Dの例である「コックさん」は、数ある絵かき歌の中でも傑作中の傑作といわれ、極めて評価の高い絵かき歌である。この「コックさん」は、もともと子供の中で伝承されていたものを基に、作曲家の間宮芳生氏が手を加えて(譜例1)、1964年から1965年にかけてNHKテレビ番組「歌の絵本」で放映され、全国的に流布した絵かき歌である<sup>13)</sup>。既に35年以上の歳月を経て、既に各地域において伝承わらべうたとして位置付けている。

この絵かき歌を授業で例示したところ、違う「コックさん」を知っているという学生が出てきたため、各自に「コックさん」をかかせた。「保育音楽」の受講学生26名中18名が、自分の記憶をたどってかくことができた。学生がかいた「コックさん」の冒頭は、全て同じである。しかし次にくる言葉が「葉っぱ、お皿、おなべ」の3通りに分かれている。「お皿」も「おなべ」も、続いて「葉っぱ」に進むのであるが、ここでは便宜上2番目の言葉によって、次の3つに分類する。なおバリエーションは、( )内に記す。

## (1) 「葉っぱ」型 &lt;11名&gt;

- ①棒が1本あったとき
- ②葉っぱかな 葉っぱじゃないよ カエルだよ
- ③カエルじゃないよ アヒルだよ (+アヒルじゃないよ 土人だよ \*1人のみ)
- ④6月6日に雨ザーザー降ってきて(雨ザーザー)
- ⑤三角定規にひびいて(ひびはいて)
- ⑥あんパン(こっぺパン)2つ 豆3つ(あんパン2つ下さいな/豆6つ)
- ⑦こっぺパン(あんパン)2つ下さいな
- ⑧あつという間に かわいいコックさん

## (2) 「お皿」型 &lt;6名&gt;

- ①棒が1本あったとき
- ②お皿かな お皿じゃないよ 葉っぱだよ
- ③葉っぱじゃないよ カエルだよ
- ④カエルじゃないよ アヒルだよ
- ⑤6月6日に雨ザーザー降ってきて(雨ザーザー)
- ⑥三角定規にひびいて
- ⑦あんパン(こっぺパン)2つ 豆3つ
- ⑧こっぺパン(あんパン)2つ下さいな
- ⑨あつという間に かわいいコックさん(あつという間に コックさん)

## (3) 「おなべ」型 &lt;1名&gt;

- ①棒が1本あったとき
- ②おなべかな おなべじゃないよ 葉っぱだよ
- ③葉っぱじゃないよ カエルだよ
- ④カエルじゃないよ アヒルだよ
- ⑤6月6日に雨ザーザー降ってきて
- ⑥三角定規にひびいて
- ⑦あんパン2つ 豆3つ
- ⑧あつという間に かわいいコックさん

「コックさん」の回答者18名中11名が、(1)の「葉っぱ」型であった。学生の出身地を照らし合せてみたところ、(3)の「おなべ」型を書いたのは、18名中ただ1名、兵庫県の神戸出身の学生であった。回答者数が少ないため断定はできないが、「おなべ」型は、関西に多いのではなからうか。また(2)の「お皿」型を書いたのは、秋田県出身の2名と岩手県の沢内村・北上市・平泉町出身の3名、そして福井県の敦賀出身の計6名の学生だった。青森県、宮城県出身者を含む11名の学生が、「葉っぱ」型であるところをみると、秋田県を除く岩手県の近県では「葉っぱ」型が多いと考えられる。因みに筆者は北海道の小樽出身であるが、やはり「葉っぱ」型で歌っていた記憶を蘇らせることができた<sup>14)</sup>。

なおバリエーションで、「こっぺパン2つ」がない場合は耳なしのコックさんになり、「豆3つ」がない場合は、コックさんの洋服にボタンは付いていない。また「葉っぱ」型ではあったが「豆6つ」と書いた学生は宮城県出身者であり、「コックさん」の服には、ゴージャスに6つものボタンが描かれていた。





















